

研究所だより

第393号
2018年11月12日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“どんぐりころころ ドンブリコ お池にはまって さあたいへん
どじょうが出てきて こんにちは 坊ちゃん一緒に 遊びましょう”

『どんぐりころころ』 日本の童謡・唱歌（大正時代）



～晩秋～

7日は“立冬”でした。暦の上では冬の始まりです。朝夕冷え込み、日中の陽射しも弱まってきて、冬が近いことを感じさせるようになります。木枯らし1号が吹くのもこのぐらいの時期ですね。

＝ “学び”のフルコース「学校給食」 ＝ (月刊 日本教育6月号から)

著者 加藤 昌男 氏 (NHK 放送研修センター日本語センター専門委員)

お昼の教室。給食当番が白衣とマスクを着け、食器かごを運び配膳台を整え、全員が着席。そして「いただきます」。準備から片づけまで給食の時間は四、五十分。てきぱきと事が進みます。低学年から毎日繰り返される動作が食習慣の基本となるとともに、給食は様々な学びを身につける場となります。

給食に期待される七つの目標

学校給食法第2条には「給食の目標」として7項目が定められています。長い条文から要点だけ取り出すと次の7つです。

- ① 適切な栄養の摂取による健康の保持増進。
- ② 健全な食生活を営むことができる判断力と望ましい食習慣。
- ③ 明るい社交性及び協働の精神。
- ④ 生命及び自然を尊重する精神と環境保全に寄与する態度。
- ⑤ 食にかかわる活動への理解と勤労を重んずる態度。
- ⑥ 国や地域の伝統的な食文化について理解。
- ⑦ 食料の生産、流通、消費についての正しい理解。



このように「給食の目標」には、食に加えて生命、自然、環境、文化など“学びのフルコース”が盛り込まれています。学校給食法は昭和29年の制定以来改正を重ね、この7項目は平成21年度から新に加わりました。

午前中の教科指導が一段落し、一息つきたい先生たちにとって、給食指導はなおも気を抜けない時間帯です。

「欠食対策」「脱脂粉乳」「完全給食」

学校給食が始まったのは明治22年。山形県鶴岡市の私立忠愛小学校で「欠食児童対

策」として簡素な昼食が配られたのが最初とされています。その後各地の学校に広がりますが、戦争による食糧事情の悪化で中断されます。

戦後昭和21年、アメリカからの食糧援助により学校給食が再開されます。食糧難のこの時代は国民全体の栄養確保、体力向上が課題でした。アメリカからは救援団体による「ララ物資」やユニセフ（国連児童基金）からの援助物資として小麦粉や脱脂粉乳が送られ、これが学校給食を支えることとなります。

この時代に育った世代には「脱脂粉乳」の強烈な味が忘れられません。とても喉を通らず、こっそり持ち帰ろうとしてカバンの中をべとべとにした苦い記憶が私にもあります。

やがて食糧事情が回復し、全国の学校で「ミルク給食」や、主食・おかず・牛乳をセットにした「完全給食」が始まります。

脱脂粉乳が生牛乳に切り替わったのは1950年代に入ってからです。またアメリカで余剰物資だった小麦粉は「コッペパン」などに加工されて給食に出されます。これによってそれまで米飯中心だった日本の食事はパン食に比重を移すこととなります。

欠食対策として出発した学校給食は、日本人の食習慣を変え、教育の一環として「食育」の役割を担うこととなります。



食の安全、栄養バランス、多彩な献立

学校給食法では「義務教育諸学校の設置者は、学校給食が実施されるように努めなければならない」と規定し、施設を整え、専門の栄養管理者を配置するように定めています。

給食の実施日数は年間190日。この間、一度に数百人規模の食事を用意するのですから徹底した衛生管理が求められます。安全面ではまず食中毒を出さないことです。ノロウイルス、O157や食品への異物混入など油断できない問題が次々に発生していますし、食物アレルギー対策も求められます。

給食の調理方法には「自校方式」「給食センター方式」「デリバリー方式」がありますが、いずれも、年間を通して栄養バランスのとれた献立を計画するとともに、子どもたちが給食を楽しめる工夫を求められます。

地域の特産品を使ったメニューや季節の行事に合わせた献立、農業実習で収穫したコメを使った献立などに加え、陶器の産地では地元で作った食器を使うなど、地域の食文化を取り入れる工夫が各地で見られます。

また、給食は望ましいマナーを身につける場でもあります。かつての「先割れスプーン」は乱暴な食べ方につながるとして姿を消しましたが、箸の持ち方、フォークの使い方なども折に触れて指導が必要な項目です。

冒頭の「7つの目標」をふまえると、給食指導に求められる課題は多方面に渡ります。

中学の給食－川崎方式と横浜方式

ところで給食は小学校ではほぼ全校で行われていますが、中学校の実施率は地域差があり、平成28年度、全国平均が90%なのに対し神奈川県は27%にとどまっています。

これには、横浜市と川崎市が急激な人口の増加に押され、中学校での実施が困難だったという事情があります。このため両市はそれぞれの方式で解決に取り組んできました。

川崎市では、市内3ヶ所に給食センターを新設し、52校の中学校を3ブロックに分けて一気に完全給食を実施する方式を、平成28年度から2年がかりで実現しました。

これが実現したのは民間資金を活用して建設、管理、運営を行う「PFI方式」を採用した

ため、この春から2万9千人の中学生が揃って給食を受ける態勢が整いました。

一方、横浜市では平成26年に「横浜らしい中学校昼食のあり方」を教育委員会がまとめ、独自の方式で取り組んでいます。

横浜方式は「家庭弁当」と「配達弁当（事前予約）」のどちらも選択でき、当日注文できる「業者弁当」で補完するというものです。

配達弁当は通称「ハマ弁」と呼ばれ、民間業者が製造と配達に当たり、インターネットなどで予約できる仕組みです。価格は「ごはん・おかず・汁物・牛乳」のセットなら340円。ご飯の量やおかずは自由に組み合わせることができるもので、28年度中に市内145の中学校全校で実施に移されました。

教育委員会ではこの方式を「“個に応じた食”の重要性を基礎に、自ら考え、判断・選択・行動し、社会を生き抜く総合的な力を、食を通じて培うことが重要」と説明しています。



健康もマナーも判断力も社会性も

“食”は「衣食住」の一環であり、“昼食”は「朝昼夕」の3食の一つです。小・中学校の給食を通しての学びは、健康もマナーも判断力も、その後の生活全般に及ぶ基本です。

最近、ある中学校の校長が卒業生に向かってこんな言葉を送ったと聞きました。

「皆さんは4月からは給食がなくなります。これまで小・中学校では予め用意された食事に頼ってきましたが、これからは、自分で考え、選び、判断することになります。これは、食事だけでなく生活全般に通じることです」と。

◎第2回教育研究所運営審議会

10月30日（火）に第2回教育研究所運営審議会を開催しました。

本年度上半期の主な事業の実績

- ① 教員の資質・指導力の向上の取組
転入教職員研修会の開催、校内研修会等への支援
 - ② 学力・指導力向上の取組
教育推進委託事業：教研活動、教育調査研究委託事業：研究協力校への支援
学力向上検討委員会（連携事業）
 - ③ 豊かな心と健やかな体の育成の取組
教育相談に関する事業、定期的な学校訪問、適応指導教室「あすなる教室」との連携、教育支援コーディネーター「あすなるネットワーク」連絡協議会の開催
 - ④ 特別支援教育支援、
 - ⑤ 情報教育に関する事業、
 - ⑥ 資料収集に関する事業、
 - ⑦ 刊行物等（研究所だより、社会科副読本「土佐清水市の暮らし」、「中濱万次郎」副読本編成委員会の開催等）
 - ⑧ 教育研究所運営審議会
 - ⑨ 教育研究所連絡協議会
- について報告、意見交換を行いました。

研究所の事業を進めるに当たり、多くのご教示・ご示唆を頂きましたので、下半期の教育研究所の運営、研究推進に生かしていきたいと思っております。

☆第1回学力向上検討委員会（委員長：黒岩校長）

10月22日（月）に第1回学力向上検討委員会が開催されました。構成メンバーは、三崎小：黒岩校長・清水中：岡崎校長（校長会）、清水小：岩井先生・清水中：田口先生（研究主任）、岡田・勝間（研究所）、田中指導主事の6人で組織されています。委員長には黒岩校長、副委員長には岩井先生が選出されました。

協議では、全国学力学習状況調査（標準学力調査含む）の経年比較、各教科の領域別・評価の観点・問題形式についてと各小中学校の課題と具体的な改善策、特に効果のあった取組や効果のあった家庭学習について協議し、今後の方向性について話し合いが行われました。

1. 全国学力・学習状況調査（標準学力調査含む）結果の分析について（課題）
小学校では図形、割合、文章の読み取り等各校の課題は共通しており、中学校では、根拠に基づいた説明に課題が見られたとの意見が出されました。
2. 今後の計画について
単元構想を明確にした授業改善や、考え確かめたくなる場面設定、ダントツシートを活用しもう一度解いてみる、家庭学習の時間を確保するためにも保護者への啓発を行っていくということになりました。また、市教研の部会についても、連携を深めるためにも数を絞る方向で考えてはどうかという意見も出されました。
3. 平成30年度高知県学力定着調査に向けて
実施期日：平成31年 1月9日（水）
内 容：事前に示されている（配信済み）「出題予定範囲」を再度確認してください。

お知らせ

～ご利用をお待ちしています～

☆教材の紹介☆

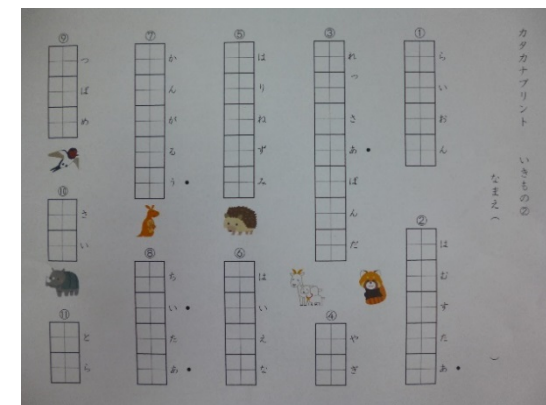
低学年用のカタカナプリントを作りました。

○カタカナプリント

☆書籍の紹介☆

○リーダーズ・ライブラリ

Vol. 7 「シリーズ・授業を変える1 『問い』を起点とした授業づくり」



＝委託事業（教研各部会・研究協力校等）の提出物・期限について＝

○各部会

部会決算書	12月25日（火）
事業実績報告書	1月28日（月）
総括教研部会報告書	1月28日（月）
研究集録原稿	1月28日（月）

○研究協力校等

研究集録原稿	1月28日（月）
決算書・実績報告書	2月25日（火）

